鎌倉市教育委員会 令和6年2月定例会会議録

○日時 令和6年(2024年)2月1日(木)
9時30分開会 10時35分閉会

○場所 鎌倉商工会議所 301 会議室

○出席委員 高橋教育長、下平委員、朝比奈委員、長尾委員、林委員

○傍聴者 4人

○本日審議を行った案件

日程1 報告事項

- (1) 教育長報告
- (2) 部長報告
- (3) 課長等報告

ア 市有地管理に起因する事故による市の義務に属する損害賠償の額の決定に係る専決について

イ 行事予定

(令和6年(2024年)2月1日～令和6年(2024年)3月31日)

日程2 議案第30号

鎌倉市指定文化財の指定及び解除について

日程3 協議事項

令和6年度(2024年度)鎌倉市学校教育指導の重点について

高橋教育長

定足数に達したので委員会が成立した。これより2月定例会を開会する。本日の議事録署名委員は長尾委員にお願いする。本日の議事日程はお手元に配布したとおりである。日程に従い議事を進める。

1 報告事項

(1) 教育長報告

高橋教育長

私からは2点、ULTLA インパクトデイ及び鎌倉スクールラボファンドについて報告する。

1月20日にULTLAインパクトデイが開催され、子どもたちが成果発表を行った。非常に子どもたちも頑張っており、「初めて自分を表現できたと感じた」と発表してくれた子どもが象徴的だったと思う。開催場所は鎌倉能舞台であり、舞台には上がれなかったが、子どもたちは舞台袖からマイクは使わず自分の声で話してくれて、子どもの成長を我々も見取ることができた。また、「個性という財産を見つめ直せたことに感謝している」と感想を寄せている子どももいた。なお、アンケート結果でも、「自分に合った学びかたであれば学びたい」という声があり、学校には中々行けていないものの、学びに向き合い始めている子どもの様子を見ることができた。こういった感想を寄せる子どもが多くおり、かまくらULTLAプログラムの取組も3年目となり、一定の成果、手ごたえを感じているところである。これらを学びの多様化学校で生かしていけるよう、新教科「ULTLA」に反映させていきたいと考えている。

鎌倉スクールコラボファンドは、1月末まででクラウドファンディングは終了し、目標は辛くも達成することができ、協力を改めて感謝する。前回の教育委員会定例会にて可決された鎌倉スクールコラボファンド活用基金条例について、市議会にて認められれば、より適切な予算の執行を行うことができ、また年度を通じて寄附を募ることができる仕組みとなるので、進化させていきたいと思っている。

かまくらULTLAプログラム及び鎌倉スクールコラボファンドの活動は、まだ一部の児童生徒に留まっていることから、まだまだ我々教育委員会の周知が足りないことは真摯に反省し、取組を進めていきたい。また、この2つの取組を通して、非常に大事なもの、学習の個性化や、個別最適な学びなど本質的なことが見えてきていると思っている。ここで得られたセンスを、通常の学校や授業の中に行き渡らせていくことで、これからより本質的なフェーズに入ってくると考えているので、また改めて報告、相談をしたいと思う。その本質的なフェーズは、まさに本日協議事項にある鎌倉市学校教育指導の重点などに反映していくことであると思っているため、後ほど教育委員には協議を願いたい。

下平委員

1月25日に鎌倉市の学校保健大会に参加してきた。学校の教員、医師、そして議員も参加し、非常に熱心な質問も出て、興味深い話しを伺うことができた。順天堂大学の眼科医師の根岸先生から、「GIGA スクール構想に伴う子どもの目の問題」というタイトルの講演があり、GIGA スクール構想はまだ始まったばかりで経過中であるし、それからコロナ禍による一人一台端末の時代の影響等も、まだ結果としては目にどれだけの負担がかかるかははっきりとは言えないとのことであった。ただ、昔から言われているように夜寝る前にブルーライトを長く見ることは間違いなく睡眠障害に繋がるということ、また、画面を見る時の角度に気を付ける、目から30cm以上離す等の配慮、指導なども目に負担をかけるためには非常に重要だということであった。私も改めて学ぶこともあり、再確認することができた。一つ衝撃的だったのは、よく昔から本を暗い中で見ていると「目が悪くなる」と言われたのだが、視力が落ちるということは、子どもの成長で焦点が当たる位置が変わり、焦点がずれてくるということであるため、身長は、「伸びてよかった」と言うのに、視力が落ちてくることを「目が悪くなる」と表現することは全く適切ではないという話があり、視力が落ちることは成長過程であって眼科医からすると矯正して1.0が出るのであれば全く病気でもなく、悪くなったのでもなく、成長の過程なのだと、改めてなるほどという気付きがあった。もう一つ色覚に関することについて、私も改めて知ったのだが、私が学生の頃は石原式という色覚検査を必ずクラス全員受けていたが、今は全くやっておらず、職業に就くときになって初めて色覚検査を受け、鉄道関係の職業やパイロットなどはその結果によりシャット

アウトされてしまうことがある。その時点で本人が気付くというのは非常に悲劇なので、この辺りは考えなければいけない。また、小中学校の現場でも、子ども本人も家族も気付いていないケースが多々ある中で、気を付けているのは分かっているが、コントラストをしっかりとつける、ユニバーサルデザインを取り入れる、色だけではなく形もしっかりと活用して講義をする、それから視覚的に見分けにくい色合いの物は避ける等、クラスに一人、二人はいるだろうという配慮のもとで指導する必要があると教えてもらい、改めてそうだな、なるほどと感じた。私も最近スマホ依存なのだが、近くのスマホばかり見ているとどうしても使う筋肉が偏ってしまい斜視にもつながるということで、タブレットを一定時間見たら必ず遠くを見るというように、緊張と弛緩といった筋肉の使い方の変化をバランス良くしないといけない。それから、勉強でテキストやデジタル教科書などを見るのであれば、やはり外遊びの時間をしっかりと作るようなバランスがこれからますます大事になっているという話をきいた。

林委員

同じく学校保健大会に参加してきた。ほとんど同じ意見であり、特に色覚のところではユニバーサルな授業づくりということで、様々な指導の中で教材を作る際に気を付けるということはすでにやっているが、さらに意識していくことが大事だと思った。また、今回の話を聞いて、学校現場だけではなく家庭での子育ての中でも必要な指導であると感じた。学校ではタブレットをテーブルの上に置いて約30センチ離すなど配慮をしており、さらに45分の授業の中で30分も見続けることはないため、家庭での指導がより重要であると思う。この話はPTAの保護者が参加する機会に講演を聞いてもらおうと、学校でデジタル教材が多くて視力が落ちる等懸念している保護者も安心感を持つことができると思うので、是非そちらの方にも声を掛けてほしい。講師の先生の話はとても柔らかく上手であり、「子どもたちに『斜視になった時に目玉に針を注射して直す方法があるけど、注射痛いよ。目を休める方法と痛いのとどちらが良い?』と聞くと大体の子どもは『休む』と言うことが多い。」と非常に柔らかいお話しをしてくださったので、是非今度はお母さんたち、お父さんたちにも聞いていただきたいと思う。

下平委員

斜視の話が出たのだが、スマホをずっと見ているということで斜視が非常に増えているのは確かなようだ。早く気が付けば大きな手術をしなくても矯正の方法もある。それと、視点がどこにあるか分からないということで斜視がきっかけでいじめに発展するという様なケースもある。本の紹介だが、川上未映子氏書いている「へブン」という本は、小学校のときに昔はロンパリという言い方をしたのだが、斜視が原因でいじめにあった方が再生して行くという話で、皆にもきっと参考になると紹介されていた。教員も気づいたらやはり早めに対処していただけると良いと感じた。

長尾委員

私もULTLAインパクトデイに参加した。事務局の職員が配慮しながら進めていて、司会も非常に面白くて素晴らしい会だった。私は海のパログラムに少しだけ参加したことはあったが、全体を把握するというのは今回初めてであった。その中で私が思ったのは、非常に個性のある魅力的な講師が大勢集まっていると思った。講師の方々の魅力的な授業、学びを受け取ることができるのが人数的には凄く少ないので、個人的には通常の学校でもこのような素敵な講師の方、素敵な学びというものをもう少し取り入

れられたら良いのではないかと思った。10人、20人ではなくて、各学校に素晴らしい授業という形で展開できたら嬉しいと思った。

朝比奈委員

私も ULTLA インパクトデイに参加した。久しぶりにプログラムに参加していた子どもたちに会うことができ、「カレーが美味しかった」など思い出を言ってくれたので、本当に関わらせてもらえて嬉しかった。森のプログラムは浄智寺にて行われた。私では気が付かないことが多いが、やはりあの「場所の力」というのがおそらくある。それは海にしても同じことだと思うが、そういった環境に鎌倉は恵まれており、有難いことであるため、教育に、みんなの楽しい時間にこれからもどんどん生かしていきたいと感じた。

林委員

私も ULTLA インパクトデイに参加した。かまくら ULTLA プログラムは今年で3回目であり、毎年拝見しているが、私たちが参加できる時間は限られており、全体を通して見ることができず、子どもたちそれぞれの特徴、特性が中々見えないため、もう少し一人一人の子どもたちの姿が見える形で参加することができれば良いと思う。また、子どもが何かやろうと思うと、周りの皆が子どもと関わってくれるので、中々子どもの動きを追うことができない。職業柄であるが、その子の変容のようなものを見たいと思うので、そこは少しこれから考えてもらえると有難い。学校現場だと、子どもが何か取り組むときに、教員は一度引いて、その子が困るのかどうか少し様子を見た上で関わっていくが、何かそういう場面を、これから上手に子どもに刺激を与えないような形で見せてもらえるともっとかまくら ULTLA プログラムの良さが出るのではないかと思う。それから、学びの多様化学校などで取り組んでいくときには、やはりそこがすごく大事になるのではないかと思う。学びの多様化学校で学んで社会に出る子たちが、独り立ちしていくことができるために、そこの大人の手当の仕方というのをやはり見たいと思うので、これから検討していただけると有難いと思う。もう少し見られる時間を増やしてもらえると、変容も見ることができると思うので、よろしく願います。

高橋教育長

目の健康も GIGA スクール時代においては不可欠なものになってくるため、指摘のあった点も含めて進めていきたいと思った。

かまくら ULTLA プログラムについても、学校に行きづらい子どもたちを射程にしているという性質上少し規模感が小さくはなっているが、ここで得られたものは本質的なものが多い。朝比奈委員が言っていたように、「場の力」というのも感じ、雨がしとしと降る浄智寺の中で色々なアートをやってみるという取組は、大人たちが色々と言わなくても、子どもたち自身が色々なものを学び取っていくような場であったと思っている。どうしても子どもに色々提案したり支援してしまったりということ、我々教育関係者はしがちなのだが、場があるだけで子どもたちが学び取っていくといった「場づくり」については、私自身も学びになったと思っている。そして一番大事なのは林委員が言ったように、子どもたちをしっかりと見取っていくことである。ULTLA インパクトデイは子どもたちの発表の場であると同時に、この施策の報告会でもあるため、これからはどういった工夫できるか考えたい。

(2) 部長報告

教育文化財部長

私からは2月議会の予定等を説明する。2月6日から一般質問が2日間、3名の議員から通告を受けているところであり、14日から16日までが代表質問、予算関連の会派ごとの質問になる。今回は予算議会なので予算審査特別委員会が3月4日から予定されている。教育文化財部はおそらく3月5日になる予定である。また結果については、本定例会で報告するのでよろしく願います。

(質問・意見)

特になし

(3) 課長等報告

ア 市有地管理に起因する事故による市の義務に属する損害賠償の額の決定に係る専決について

高橋教育長

次に課長等報告に移る。報告事項ア「市有地管理に起因する事故による市の義務に属する損害賠償の額の決定に係る専決について」、報告を願いたい。

教育文化財部次長兼文化財課長

報告事項ア「市有地管理に起因する事故による市の義務に属する損害賠償の額の決定に係る専決について」報告する。議案集1ページ及び別紙資料を参照願う。本件は、令和5年(2023年)12月7日に、史跡永福寺跡内にある市有地の立木から枯れ枝が折れて飛び、民有地内の郵便ポストを破損した事故について、市有地の管理瑕疵に起因する事故であることから、当該ポストの修理費用として賠償金の支払い義務があると認め、相手方に損害賠償を行うものである。本来であれば、市議会に議案を提出する前に、教育委員会において議決を得るべきものであるが、相手方との協議に時間を要し、本来議決を得るべき1月の教育委員会に議案を提出する時間的余裕がなかったため、鎌倉市教育委員会事務の教育長への委任等に関する規則第2条第2項に基づき、令和6年(2024年)1月23日に専決処分を行い、同規則第5条の規定により、報告するものである。損害賠償の相手方等、詳細は資料のとおりである。

(質問・意見)

下平委員

写真等を見ると、非常に大きなものが飛んだのだと思った。今後も気をつけないと心配である。これは台風により倒れたものか。

教育文化財部次長兼文化財課長

特に暴風等ではなく、通常の雨風で倒れてきたということである。

(報告事項アは了承された)

イ 行事予定

(令和6年(2024年)2月1日～令和6年(2024年)3月31日)

高橋教育長

次に報告事項のイ「行事予定」について、記載の行事予定で特に伝えたい行事等があれば報告をお願いする。

(教育文化財部)

特になし

(質問・意見)

特になし

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

2 議案第30号 鎌倉市指定文化財の指定及び解除について

高橋教育長

次に日程の2、議案第30号に入る。「鎌倉市指定文化財の指定及び解除について」、議案の説明をお願いしたい。

教育文化財部次長兼文化財課長

議案第30号「鎌倉市指定文化財の指定及び解除について」、議案の説明をする。議案集は7ページ及び別紙資料を参照願う。今回の指定予定物件は2件、解除物件は2件で、令和6年(2024年)1月22日に開催した鎌倉市文化財専門委員会の答申を得ている。まず、指定予定物件について説明する。

1件目は、彫刻「木造 伽藍神像 四軀」、所有者は海蔵寺である。制作年代は南北朝時代である。この像は、市内の扇ガ谷に所在する臨済宗建長寺派に属する海蔵寺の薬師堂に安置される四軀の伽藍神像である。この伽藍神像は、江戸時代・安永6年(1777年)に海蔵寺仏殿が再建された際に建長寺から移されたもので、建長寺の前は現在の横浜市金沢区にあった能仁寺に祀られていたと言われている。この伽藍神像の制作年代については、かつて同じく能仁寺にあり現在は静岡県河津町の林際寺にある地

蔵菩薩像が参考になり、その地藏菩薩像内の墨書銘によれば、仏師上総法眼朝榮の作で、永徳2年（1382年）3月7日に像を造り始め、翌永徳3年（1383年）4月21日に完成したことがわかっている。作者と制作年代が知られる南北朝時代の貴重な基準作となっているものであるが、海蔵寺伽藍神像は、その林際寺に伝わる地藏菩薩像と構造や作風が類似しているため、南北朝時代、14世紀後半に仏師朝榮らの周辺で造られたものと判断される。海蔵寺伽藍神像は、日本における伽藍神像のなかでも最も制作年代が古いとされる、建長寺仏殿内の伽藍神像を模範として造られたと考えられており、鎌倉地方における伽藍神像の受容と展開を考察する上で重要な作例であることから、鎌倉市指定有形文化財にふさわしい作品となっている。

続いては、2件目は、古文書「報国寺文書 一括」、所有者は報国寺、年代は延慶元年（1308年）から明治37年（1904年）である。報国寺文書は、市内浄明寺に所在する、臨済宗建長寺派に属する報国寺に伝来した中世から近世・近代の文書群である。本文書は、現在、鎌倉国宝館に寄託されている計340点が対象となる。このうち最も古い史料は延慶元年（1308年）12月22日付の太政官符の写しで、最も新しい史料は明治37年（1904年）の帳簿類である。中世から近代に及ぶ豊富な史料であり、報国寺領に関する応永元年（1394年）の「道高く上杉能俊>寄進状案」や宝徳3年（1451年）の「休畊庵寺領注文」、報国寺の歴史を記した「報国寺記」、北条氏康の印判状などの中世文書をはじめ、江戸幕府歴代将軍の寄進状や公帖、種々の回向文などの近世文書が含まれており、報国寺の歴史や鎌倉の禅宗寺院の動向、ひいては武家政権と鎌倉の関係を知る上で欠くことのできない重要な史料群となっている。

次に、解除予定物件について説明する資料1-4及び資料1-5の指定解除についての資料を参照願う。

解除物件のうち1件目は、天然記念物「英勝寺のワビスケ 一株」、所有者は英勝寺である。英勝寺のワビスケは、扇ガ谷一丁目305番、英勝寺境内にあり、昭和38年（1963年）7月17日に鎌倉市指定天然記念物に指定された。所有者である英勝寺により管理されてきたが、この度、枯死、枯れてしまったことを確認し、天然記念物としての価値が失われたため、指定を解除しようとするものである。経過は資料に記載したとおりで、令和5年（2023年）3月に所有者からの相談を受け、5月に植生を専門とする文化財専門委員に状況を確認してもらい、この時点で既に枯れていることを確認したものである。

解除物件のうち2件目は、天然記念物「鎌倉宮のオガタマノキ 一株」、所有者は鎌倉宮である。鎌倉宮のオガタマノキは、二階堂154番、鎌倉宮境内にあり、昭和47年（1972年）12月12日に鎌倉市指定天然記念物に指定された。所有者である鎌倉宮により管理されてきたが、この度、枯死、枯れてしまったことを確認し、天然記念物としての価値が失われたため、指定を解除しようとするものである。経過は資料に記載したとおりで、こちらも、令和5年（2023年）6月に所有者からの相談を受け、7月に植生を専門とする文化財専門委員が状況を確認したところ、樹勢がかなり衰えており、今後回復が望めない状態であった。その後、改めて11月に文化財課職員が現地で再度樹勢が回復していないことを確認した。さらにその状況の写真を専門委員会の委員に確認してもらい、既に枯れていることを確認したものである。

これらの指定及び解除については、令和5年（2023年）11月28日開催の第2回鎌倉市文化財専門委員会において諮問し、令和6年（2024年）1月22日開催の第3回鎌倉市文化財専門委員会において、それぞれ指定及び解除が適当との答申を受けている。今回、新たな有形文化財の指定が2件、天然

記念物の解除が2件であるので、鎌倉市指定文化財の件数は変わらず、329件となっている。国宝の15件、国の重要文化財等200件、県の重要文化財64件とあわせた、市内の指定文化財の数も合計608件と変わりはないこととなる。なお、本件については当委員会での議決ののち、速やかに指定告示を行い、市議会2月定例会、教育福祉常任委員会にて報告を予定している。併せて、広報かまくら等に掲載し、周知を図る予定である。

(質問・意見)

特になし

(採決の結果、議案第30号は原案どおり可決された)

3 協議事項 令和6年度(2024年度)鎌倉市学校教育指導の重点について

高橋教育長

それでは、日程の3、協議事項「令和6年度(2024年度)鎌倉市学校教育指導の重点について」を協議する。協議事項の説明を願いたい。

教育指導課長

日程の5、協議事項「令和6年度(2024年度)鎌倉市学校教育指導の重点について」、その概要を説明する。議案集8ページ及び別紙資料を参照願いたい。毎年度、教育委員会からその次年度に重点的に推進しようとする「学校教育指導の重点」の内容を定め、全教職員に年度当初に配付し、学校訪問等の場で内容の周知をしている。資料1が「令和6年度(2024年度)鎌倉市学校教育指導の重点(案)」、資料2は令和5年度(2023年度)のものになる。なお、資料1の文中、赤字の部分が、令和6年度(2024年度)として変更した箇所となる。資料1、表面、裏面の体裁については大きな変更はない。令和3年度(2021年度)からの学習指導要領全面実施を受けて、教育委員会会議での議論を経て、現在の形にまとめられた。令和5年度(2023年度)では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、子どもたちの興味関心から学びを組み立てていくSDGsを意識した問題解決学習に積極的に取り組んだ学校も見られた。また、ICTを効果的に活用した、校務の効率化や授業実践が多く見られるようになり、鎌倉市の学校教育全体が変わりつつあると感じている。この令和5年度(2023年度)に育った教育の「芽」をさらに育て成長させていくために、令和6年度(2024年度)は、令和5年度(2023年度)の学校教育指導の重点を引き継ぎ、鎌倉市全体の教育へ浸透させていくよう進めたいと考える。よって、令和6年度(2024年度)は「学校教育指導の重点」についてはこれまでのものを継承し、「新しい時代を生きる児童・生徒の豊かな学びにつながる教育活動の推進」とし、副題を「全ての子どもたちがワクワクしながら学べる魅力的な学校教育にむけて」としたいと考えている。また、重点項目については一部を変更し、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」、「インクルーシブな学校づくり」、「安心・安全な学校教育環境の実現」、「人権意識の向上と豊かな心の醸成」の4点を柱として、鎌倉市の教育指導を進め、小中学校25校へ浸透させていきたいと思っている。内容において修正した点を説明す

る。前文については、学習指導要領の理念をより明確にするため、一部文言の整理を行った。4つの重点項目のうち、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善』では、前文に含まれる文言を削除し、より具体的な内容となるよう文章を整理した。また、「インクルーシブな学校づくり」の項目については、タイトルの変更を行った。以前は「個に応じた支援教育の充実」というタイトルであったが、特別支援教育だけの項目に捉えられる可能性もあることから、全ての子どもを対象とした支援を行う学校づくりを目指すため、「インクルーシブな学校づくり」とタイトルを変更した。指導要領全面実施4年目となる令和6年度（2024年度）も、着実に4つの視点から教育指導を充実させ、子どもたちがワクワクしながら学べる鎌倉市の学校教育を実現させていく。右側の部分だが、「主な関連事業」、「主な関連担当者会等」をそれぞれの重点項目と対応させ、整理している。学びの多様化学校の設立に向けた事業、担当者会を主に追加している。裏面の「学校教育の充実に向けた研修会・研究会等の取組」については、教育センター企画研修会について事業の整理を行った。「関連事業」と最終ページの「学校教育の充実に向けた研修会・研究会等の取組」は、令和6年度（2024年度）予算とも関連があるため現段階では未定のものもある。これまで、紙で印刷する仕様の体裁をとっていたが、令和6年度（2024年度）版より、端末で一覧できるよう体裁を変更したバージョンも作成する予定である。本日協議の中で意見を受けるとともに、さらに意見等があれば2月16日までに教育指導課担当まで伝えてもらいたい。これらの意見等を受けさらに修正を加え、3月の教育委員会定例会で提案する。

（質問・意見）

林委員

「インクルーシブな学校づくり」にタイトルが変わったところが良いと思う。色々な視点から、色々な子どもを見るという点で、この言葉の方が良いと思う。「学校教育の充実に向けた研修会・研究会等の取組研修会」について、「教育センター企画研修」が4つの項目に分かれているが、経過は何かあるのか。

教育指導課長

教育センター事業であり、わからない部分もあるのだが、元々ある研修をそれぞれの項目ごとに分けたという認識でおり、特段大きく変わっている部分はない。

下平委員

1ページの「令和6年度（2024年度）鎌倉市学校教育指導の重点（案）」の箇所について、上に2行、新たな言葉が付け加えられているが、これの意図の説明を願いたい。

教育指導課長

今まで2行目の末尾の辺りの「学習指導要領では、～」から始めていたが、そもそも学習指導要領の前に、大枠で目指しているものは一体何かを明記し、次に学校教育において体现していくべきことを記載していかないと、狭い領域での目標となってしまうと感じた。そういった意味で、改めてもとの基盤となる「学校には、子どもたちが自分のよさや可能性を認識し、持続可能な社会の創り手となることが

できるようにすることが求められています。」という一文を入れることは、必要なことであると思い、始めの前文として入れることとした。

下平委員

非常に素晴らしいと思う。この一文が土台となるのは、学校指導要領に明記されているのか。

教育指導課長

学校指導要領の中の最初に書いてあるものである。

高橋教育長

鎌倉市学校教育指導の重点を、学校現場及び教育委員会の指導でどのように活用を図っていくのか説明願う。

教育指導課長

鎌倉市学校教育指導の重点は、毎年教育指導課が中心に作っており、4月当初に各学校に配布し、各教員にも1部ずつ届く様になっている。学校運営は、教育指導の重点を側面にしながら考えられているので、学校教育指導の重点は市における教育指導、学校教育を行う上での礎、土台になっていく部分であると考えられる。その部分を活かしながら、実際にこれからどういった授業をやっていくか、教育活動をやっていくかという際に、必要である具体の部分伝える手段として、学校訪問を1年に2回行っている。25校を訪問する中で、1つの学校に約4、5時間と十分に時間をかけており、授業見学と共に、この学校教育指導の重点について、こういった想いがあって、このような重点にして、今取り組んでもらっているところである、というのを改めて伝え、授業を行う中で、どういったことが鎌倉市として目指しているものなのかを認識してもらいながら、学校の中での教育活動に励んでもらっていると考えている。

林委員

これから色々な教育活動の形が変わってくる。教員がそれに対応していくところで、非常に大変な時代が来るだろうと想像される。研修会の管理職研修会の内容・目的に「学校経営上の課題への対応・教育的識見の啓発」と記載があるが、それだけではなく、将来的な鎌倉の教育を支える教職員を育てていく、10年後の教員の姿を見通した指導をしていく力も管理職は持っていなければいけないのではないかと、自分が経験して来た中で感じているところである。そういった視点で見ると、記載のある研修の内容・目的だと、今をどうにかしようというイメージだけであると感じる。子どもたちを育てる教職員を育てていく管理職という視点に立つと、何かもう一文あっても良いと思った。

教育文化財部次長

林委員の視点は非常に大切に、実際にそれぞれの管理職が本当に身にしみて感じているところではないかと感じている。教育委員会としても、そういった視点も含めて管理職研修会の内容を考えていく方向である。文言については、内容を追加するかどうかも含め検討する。

長尾委員

学校訪問の際にこの学校教育指導の重点を使用するとのことだが、実際現場への周知は、校長先生と管理職が読み合わせをするといった運用になるのか。

教育指導課長

年度当初の4月に校長会等を通じて内容を学校へ発信するといった運用になる。それを経て、各学校の中でどこまでの読み合わせをしているか、時間をどれぐらいかけているかは分からない部分もあるが、具体的に「こういったことが目指されているんだ、目指していくんだ」ということの共有は学校運営の目標と共に十分に語ってもらっていると認識をしており、我々も非常に重要視して取り組んでいる。

長尾委員

教員が目に触れる機会を増やしていただけたらと思うので、張り出し等の工夫ができれば良いと思う。また、小さいことではあるが、ページ番号が誤っているのが少し気になったため、不要なら消して良いと思った。さらに、先程教育指導課が発行しているという話があったが、発行元が書いてあると教員は何かアクションを起こしたいときにやりやすいのではないかと感じた。

下平委員

皆も見たと思うが、NHKにて「“学校”のみらい」という学習番組が放送され、興味深く長時間見た。参加者には文部科学省の方、現場の教員、過去に学校になじめなかった子どもたち、それから新たな取組を始めて結果を出している教育委員会や学校の代表の方がおり、長い話し合いなどもあり、結果から言えば中々早急には難しい、というところに最終的に落ち着いてしまったのであるが、見ていてつくづく感じたのは、急激に社会が変わってきており、これだけ全国に不登校が増えているということはやはり学校の在り方、教育の在り方を、未来に向かって大きく考え直さなければいけないというのは間違いないと思っている。そういう意味でも、先程林委員や教育文化財部次長が話されていた通り、教員が自分たちも受けたことのない教育に取り組みながら、今後に何が求められているのかを真剣に考えられるよう、教員が変わっていかうとする気持ちを盛り上げるとか、あるいは話し合うとか、そういった場が非常に求められているのではないだろうかと思う。そうでないとこのままの学校教育が続いていってしまうので、何か違うものが求められているという視点を我々が新たに持っていかなければいけないと感じた。

教育指導課長

私もNHKの番組をじっくり見て、その後教育長と協議をさせてもらう機会もあった。番組の中で、子どもたち中心、学習者中心の授業一つをとっても、今まで『主体的・対話的で深い学び』という言葉では言っているのだが、それはいったいどうやって作り上げていくのだろう、自分たちが責任感を持って子どもたちにこうさせねばならないといった考えばかりが先行していて、授業を教え込むことなど、そういったものに呪縛の様になっている部分がもしかしたらあるのではないかと、学習者中心の授業を組

み立てるということに少し勇気がいるのではないか、ということをお話している教員がいた。まさしくその通りだと思うが、そこをコーディネートすること、先ほどの UTLA インパクトデイの報告の際林委員の意見にもあったが、言いたいことがあっても少し待つ、少し俯瞰して見る、少し離れたところから見る、とそういったことは意外と勇気のいることだと思うのだが、それが求められていて、今まで自分たちが体験してきてない逆の難しさだと思っている。ただ、それが子どもたちにどんな大きな効果をもたらすのかというのは、十分に研究していく価値があるものだと思っているので、そういった部分でも我々でしっかりと発信し、共感を得ながら、今後進めて行きたいと思っている。

林委員

私は今大学で色々な地域の教員志望の学生と関わっているのだが、神奈川県以外の地域の学生が書いた論作文を読んだりすると、論作文の課題が「～させるにはどうしたら良いですか」といった文章になっていることを目にする。地域によっては「守らせるにはどうしたら良いか自分の考えを書きなさい」といった課題を学生に与えており、学生の書く内容が段々一方的になってしまっていることがある。神奈川県の学生たちには「させる、せる」という言葉は使わず、自分が教員としてどのようにしむけて、子どもがどう出来るようにするのかを書くよう書き直させるのだが、そういった視点は、鎌倉は特に根付いていると思っているので、それを大事にしながら進めていく上で、学校教育指導の重点に書いてあることは非常に有難いと思う。

ただ、先程校長会で説明をすると言っていたが、内容は一番先に校長の目に触れるようにしてほしい。校長がグランドデザインを作る際に、学校教育指導の重点が頭があれば、何を大事にしたら良いかということが明確になると思う。自分が校長だとしたら、こういう学校にしようとなれば、教員一人一人がどのように考えているのか、理解度、心の中を見取るようにする。その力をつけなければ、NHK の番組であったようなこれから未来の学校、教育には、テストで測れないものであるため、ついていけないと思う。自分がこういう学校に経営しようかと思ってグランドデザインを作成した後に、学校教育指導の重点が提示されても、付け足しというのは、中々子どもと一緒にできない。最初に学校教育指導の重点と一緒に学校のグランドデザインを教員に提示することで、教員の理解度も上がるのではないかとと思うので、考えてもらえると有難い。

教育指導課長

少し説明が足りていなかった。校長へ説明するのは確かに4月の校長会になってしまうが、資料自体は3月の教育委員会定例会にて議決して、3月の終わりに学校へ配るため、校長の目にはすぐに触れられるようになっている。各学校の新年度のグランドデザイン等に活かしてもらえたら良いと思っている。

高橋教育長

こういった素敵な議論をできる教育委員会は良いと思い、聞き惚れていた。教育委員の議論を踏まえて、私の考えを3つのキーワードに分けて話したいと思う。学校教育指導の重点とは、指導の重点をまとめることで、指導の在り方というのを一貫させ、そして校長のグランドデザインや、日々の授業実践に反映していくといった、幹のようなものであると理解しており、こういったものを作り、交流をして

いくというのは、非常に大事だと思っている。我々も教育大綱など、様々な場で鎌倉のこれからの未来の教育について議論してきており、これからも議論をしていく。一旦は、これは令和6年度（2024年度）の指導の重点としてまとめていくものになる。また一方で、教育大綱や教育プランは、令和7年度（2025年度）から新たなものになるということで、それに向けて議論をしていくため、令和7年度（2025年度）に向けては、教育大綱とも結びつけた指導の重点になっていければと思っている。そういった前提はある中での、3点話をする。

まず「学習者中心」については、今教育指導課長から話があったとおりである。林委員の言っていたとおり、鎌倉にて「子どもの視点に立つ」、「子ども中心に」といった学びづくりをしてきたということは、非常に豊かな、そして他地域にない財産であるカルチャーだと思っている。そういったところは、しっかり位置付けていくことが大事だと思っている。ある意味では時代が追いついてきたということであり、自信を持ってやってほしい、そして教育委員会として、それを応援するという形でやっていきたいと思っている。例えば、『主体的・対話的で深い学び』の視点にたった授業改善」というのが1本目の柱になっているが、「主体的・対話的で深い学び」をするのは誰かといえば、それは教員ではなくて、子どもたちである。今回、追加された「個別最適で協働的な学び」というのも、子どもたちが「個別最適で協働的な学び」をするということである。これは教員や誰かが「させる」とか「する」ということではなくて、子どもの視点がより重要になっている。そういった子どもの視点に立って、普段の授業改善や教育の充実改善をしていくといった考え方を確認したいと思う。林委員からもあったように、「させる」ということではなくて、教員に教えてもらう、先生から教わる授業といったところから、子どもたち自身が掴みとっていき、学びとっていきような学習活動、授業にしていくことが大事であり、一斉で揃えるというような近代的な教育から、AIも発達していく中で、好きで得意なことを伸ばして、不得意なところはある程度AIが補ったりしていくような学び方になっていくことが未来の学びであると思っている。前回の総合教育会議でも授業や、班別の進路学習の中で、まさに子どもたちがくるくる頭を回転させながら、学びのハンドルを握って、自ら学びとろうとしている様子を見てもらった。これが1つの授業の正解という訳ではなくて、こういった子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」に至るような場作りをどうしていくかを我々は磨き続ける、そして教育委員会としてそれを応援していく、というところを重視できればと思う。

2点目は、総合教育会議の話にもあったが、「炭火」ということが1つキーワードであると思っている。これは学校教育に限らず、炭火のように生涯に渡ってわくわくしながら学び続けられる子どもを育てていくということである。テストがあるからなどといった外発的な動機付けではない、打ち上げ花火ではなく、子どもたちの心にじんわりと火が付いて暖まり続ける、これだけ変化が激しくどんどん職業も変わっていくような時代であっても、わくわくしながら学び続けられるような子どもたちを育てるところをより重視していきたいと思っている。よって、目先の話というよりは、子どもが卒業して、そして鎌倉社会、持続可能な社会を担っていく担い手となる時のことも想定しながら、我々は子どもたちのことを育てていくための「炭火」というのが、非常に重要なキーワードであり、生涯に渡ってわくわくし続けられるような学び作りというところに、思いを致していくことが重要であると思う。

3点目のキーワードは「相似形」である。最終ページに記載の研修等について、これも林委員から指摘があったが、子どもたちに対して「主体的・対話的で深い学び」を目指すのであれば、大人や教職員への研修そのものが「主体的・対話的で深い学び」になっているのか、「個別最適で協働的な学び」に

なっているか、これは相似形で問われることなのだと思う。そして、こういった議論をしたり、こういった紙を作ったりしている我々教育委員会も普段の仕事が、「主体的・対話的で深い学び」をしながらの仕事になっているかという視点で、見直して問い直していかないといけないだろうと思っている。子どもたちにわくわくしてほしいと思うのなら、我々大人も、そして教育関係者もわくわくしながら仕事をする、そうすれば我々の後に「鎌倉で教員になりたい」、「教育の仕事をしたい」と思ってくれる人が続いていくという、良い循環になるのだろうと思っている。

非常に厳しい舵取りを校長や教員が行う部分はあるが、こういった「学習者中心」、「炭火」、「相似形」を取り入れた学びを、私を含め、教育委員会としては全力で応援したいと思うし、教育委員会がしっかりと責任を取ることだと思っているので、思い切ってやってほしい。こういった学びは何か押し付けられてやるというよりは、すでに鎌倉にある、良いものを可視化して、そして引き出すということなのだと思う。そういったことを指導というより、引き出すコーチング、ファシリテーションが、学校教育指導の重点を踏まえるとさらに磨いていけるかと思っている。

また、細かい話であるが、「社会的実践力の育成を目指します」、という箇所があるが、もう少しふさわしい言葉がないかというようなところと、「ICT活用能力の育成を目指します」、という箇所は、現在もうデジタルについては、ICT活用能力だけではなくて、様々な能力を伸ばすために、「個別最適で協働的な学び」を行うためのツールだと思うので、そういったところも伝わるようになると良いかと思う。あとは、冒頭で議論があったような学校指導要領の前文などを引用したことは、非常に良いところであり、さらに「子どもたちが自分のよさや可能性を認識する」ことに加え、「他者を価値のある存在としてしっかりと認める」というところが入っていると良いと思った。「持続可能な社会」や「共生」といった、鎌倉市全体として目指していることにも思いを致して盛り込んだフレーズもあり、これまでもやってきた「わくわくしながら学べる」といったところが前面に出ており、非常に良い作りをしている。昨年度の土台に立って教育指導課でも様々な議論をしていて、良いものを作ってもらったと思うので、年度末に向けて、さらに今日の意見なども踏まえ、内容を磨き、林委員から指摘があったように、校長にもこういった議論をバックして、各校のグランドデザインと揃えていきたいと思っている。

最後に、「持続可能性」といったところで、NHKの番組でも、中々これを学校でやるのは難しいと言っていた教員がいた。やはりそういった学習の個性化のような、例えばかまくらULTLAプログラムのようなことを突き詰めていくと、かなり手間がかかったりすることも偽らざるところであるし、人が必要だったりする、お金が必要だったりもする。そこを教育委員会としてもしっかりと応援していかなければならないというのが前提でありながら、一方で無限にリソースがある訳でもなく、教員になりたいと思う学生も倍率が少なくなってしまう現状があったりするので、今のメンバーで未来に向けて持続可能な方法でやっていかなくてはいけないというのも現実問題としてあるため、これはこれで考えていく必要がある。ただそこは、「炭火」や「学習者中心」や「相似形」という考え方と両立し得ると思っているので、追加で何かをやるというよりは、今あるものを問い直していく、または良いものを引き出していくというところで、学校への指導を教育委員会から行っていければと思っている。

(協議事項「令和6年度(2024年度)鎌倉市学校教育指導の重点について」は同意された)

高橋教育長

以上で、本日の日程は全て終了した。これをもって2月定例会を閉会する。